



## 第 382 号

令和5年6月8日発行

- 巻頭言
- 北海道中学校長会総会研修会
- 役員・理事一覧
- 運営方針及び活動の重点
- 地区だより・論文
- さりながら・文芸
- 事務局日誌

## 北海道中学校長会総会・研修会



## 「新たな時代へ 『連携』し、 『しなやか』に歩む 道中」を目指して

北海道中学校長会 会長 森田 聖吾

令和5年度の会長として御承認いただきました、旭川市立忠和中学校の森田聖吾でございます。これまでの歴代会長はじめ、諸先輩方が築かれ、継承されてきたことを受け継ぎ、北海道の中学校教育の発展のため、北海道の未来を担う中学生のために全力を尽くしてまいります。副会長の皆様をはじめ、運営委員・地区理事、事務局・幹事の皆様、そして何よりも全道20地区の561人の会員の皆様の御支援と御協力を賜りますよう、よろしくお願いたします。

さて、グローバル化やデジタル化の進展、新型コロナウイルス感染症の世界的な影響など、社会が大きく変化する中、令和の新しい時代にふさわしい中学校教育を創造するための様々な教育改革が加速しております。新しい時代を生きる子供たち一人一人の可能性を引き出し、未来の創り手となる力を育むためには、未来を見通した明確なビジョンを掲げ、創意ある展望と計画のもと、一人一人の子供を主語にする学校教育を実現することが求められます。

このような折、北海道中学校長会は、会の総力を結集し、教育改革の着実な推進と教育課題に果敢に挑戦し、今、求められる中学校教育の充実を「オール北海道」で実現し、教育の真価を発揮していかなければなりません。そ

の思いから本年度は「新たな時代へ 『連携』し、『しなやか』に歩む 道中」というスローガンを掲げました。

昨年度、全道の校長が「連携・協働」し、成功裏に導いた「第73回全日本中学校長会研究協議会北海道(札幌)大会」の成果である「各地区とのつながり」を継承していきます。さらに、その財産を生かし、新しい時代に求められる学校づくりのベクトルを20地区校長会と「連携」し、全道561校の中学校が自校のあるべき未来を創造しながら、「しなやか」に前進できるよう、本会の各種事業を着実に推進してまいりたいと考えております。

特に、9月22、23日に小樽市で開催される「第64回北海道中学校長会研究大会小樽大会」では、4年ぶりの「顔を付き合わせての研究協議」等を通じて、地区を超えた「気づき」や、校長同士の「心のつながり」を更に強固にできることを願っております。

結びになりますが、学校教育こそが、生まれ育った地域や環境等に関わらず、本道の将来を担う子供たちが、夢と希望にあふれ健やかに成長できる礎になるとの認識のもと、全道の中学校長、異校種や教育関係機関や団体の皆様とも幅広くつながり、その充実・発展に、「しなやか」に「力強く」取り組む決意であります。よろしくお願いたします。

北海道中学校長会  
第96回  
総会・研修会

第96回北海道中学校長会総会・研修会が、4月28日にホテルライフォート札幌を会場に開催された。全道から代議員38人と地区理事20人、その他役員来賓等37人参加した。会長挨拶、感謝状贈呈に続き、北海道教育委員会教育長様等が祝辞を述べられた。北海道教育庁学校教育局長様の講話後、議事に入り令和5年度運営方針及び活動重点案、各部業務計画案、会計予算案、第64回北海道中学校長会研究大会小樽大会等に係る審議及び承認後、総会宣言・決議を採択した。また、同日第1回副会長研修会・各専門部研修会も開催された。

第96回北海道中学校長会総会・研修会によせて

## メッセージ

第96回北海道中学校長会総会の開催を心からお喜び申し上げますとともに、中学校長会の皆様には、日頃から、本道の学校教育の充実と発展に多大なるご尽力をいただいていることに、厚くお礼申し上げます。

人口減少・少子高齢化の進行やグローバル化の進展、さらには脱炭素化やデジタル化の加速など、社会環境が大きく変化する中、将来にわたり活力に満ちた北海道を創り上げていくためには、ふるさとへの誇りと愛着を持ち、多様な分野で活躍し、地域づくりに主体的に取り組む人づくりがますます重要であり、将来を担う子どもたちの可能性を引き出す教育の推進が一層求められます。

特に、中学校の3年間は、生徒の皆さんの興味や関心、適性など多様化が進む重要な時期であり、道としては教育委員会などと連携して、子どもたちが夢と希望にあふれ、健やかに成長ができるよう、学校教育の発展に取り組んでまいります。

会員の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症の流行が長期にわたり、教育活動に様々な影響が生じる中、感染リスクを抑えるための対策はもとより、子どもたちの命と健康、そして「学び」を守るため、多大なご尽力をいただいていることに、深く敬意を表しますとともに、引き続き、中学校における教育の充実に向け、高い見識と指導力を発揮いただきますようお願い申し上げます。

結びに、北海道中学校長会のますますのご発展、並びに本日お集りの皆様のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げ、お祝いのメッセージといたします。

令和5年4月28日

北海道知事 鈴木直道

## 宣言

今日、我が国の教育は人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係で満たされる持続可能な社会を創るたくましい日本人を育成する使命を担っている。

私たちは、自然災害や新たな感染症の発生、グローバル化の進展や急速な技術革新など社会状況が変化中、新しい時代の中学校教育の課題に対応し、教育基本法をはじめとする教育関連法規や学習指導要領の趣旨を踏まえ、自らの責任において全日中新教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し、教育の真価を示さなければならない。

また、本道においては、将来を担う子供たちが、生まれ育った地域や環境等に関わらず、夢と希望にあふれ健やかに成長できるよう、その実現に向けた学校教育の推進が求められている。

北海道中学校長会は、「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」の推進と当面する諸課題の解決に努め、新たな中学校教育の創造を目指し、道民の負託に応えることを宣言する。

## 決議

第96回総会・研修会にあたり、以下の事項を決議し、その実現を期する。

- 一、人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」とともに「よりよい社会を形成する力」を育む教育を推進する。
- 一、全日中新教育ビジョンを踏まえ、学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し、確かな学力の定着、豊かな心と健やかな体の育成を推進する。
- 一、現在の学校教育課題に即した研修を充実し、教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。
- 一、創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会の信頼に応える教育を実現するため、人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備・充実を期する。
- 一、「教科書無償給与制度」「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」の堅持を要請し、教育水準の維持向上を期する。
- 一、新しい時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮するとともに、「学校における働き方改革の推進」「教職員の勤務実態を踏まえた環境整備」を要請し、有効かつ持続可能な指導・運営体制の構築に期する。
- 一、東日本大震災や北海道胆振東部地震をはじめ近年多発する災害等により被害を受けた地域の復興を期し、教育活動の充実に向けた支援と全道各地区・各学校における防災教育・安全教育の充実を期する。

令和5年4月28日

第96回 北海道中学校長会 総会・研修会

# 令和5年度 北海道中学校長会 役員及び理事

役職	氏名	市町村	学校
会長	森田 聖吾	旭川	忠和
副会長	1プロ 村上 俊一	小樽	菁園
	2プロ 森田 聖吾	旭川	忠和
	3プロ 長谷川 秀雄	函館	桔梗
	4プロ 盛永 明寿	日高	富川
	5プロ 徳増 秀隆	北見	小泉
	6プロ 笹川 恒春	札幌	北栄
事務局長	三浦 英悟	札幌	琴似
事務局次長	吉本 将樹	札幌	稲穂
事務局次長	河村 克也	岩見沢	東光
会計理事	伊藤 仁弥	小樽	長橋
運営委員	1プロ 金森 直人	千歳	千歳
	2プロ 森河 真	稚内	稚内
	3プロ 増田 正弘	八雲	野田生
	4プロ 渡辺 敬方	伊達	星の丘中
	5プロ 小玉 功	釧路	幣舞
	6プロ 市川 恵幸	札幌	厚別南
地区理事	石狩 小森 享	石狩	樽川
	札幌市 遠山 博雅	札幌	山鼻
	後志 山下 秀一	余市	旭
	小樽市 代永 研	小樽	桜町
	上川 袈田 佳奈恵	当麻	当麻
	旭川市 工藤 亘	旭川	中央
	宗谷 細谷 隆志	稚内	稚内東
留萌 亀田 寛人	増毛	増毛	

役職	氏名	市町村	学校
地区理事	桧山 福井 順一	江差	江差
	渡島 後藤 正弘	北斗	大野
	函館市 田上 直広	函館	湯川
	空知 烏谷 部賢太	由仁	由仁
	胆振 瀧澤 義守	登別	幌別
	日高 小嶋 範彦	新ひだか	静内第三
	十勝 中村 俊緒	池田	池田
	帯広市 能登 貴英	帯広	南町
	釧路 富田 和幸	標茶	標茶
	釧路市 佐藤 英樹	釧路	山花中
	根室 齋藤 征志	根室	光洋
	オホーツク 橋本 正之	訓子府	訓子府
経営部	副部長 野口 俊之	石狩	花川北
	幹事 松橋 辰吾	北広島	西部
	幹事 北村 剛	千歳	駒里小中
研修部	副部長 高橋 正幸	札幌	平岡
	幹事 田丸 明史	札幌	手稲西
	幹事 川原 明子	札幌	屯田北
対策部	副部長 坂本 征人	深川	一已
	幹事 小泉 寧	南幌	南幌
	幹事 柴田 真琴	岩内	岩内第一
情報部	副部長 山田 誠一	安平	早来学園
	幹事 鏡 武志	苫小牧	青翔
	幹事 高橋 泰明	室蘭	東明

## 第96回 北海道中学校長会総会

# 感謝状贈呈者芳名

御指導ありがとうございました

### 【退会者】

役職	氏名	学校名	経歴
副会長	越田 公美	札幌市立東月寒中学校	副会長(4), 事務局長(3), 事務局次長(2) 研修副部長(元), 研修幹事(29, 30)
副会長	玉置 英樹	厚沢部町立厚沢部中学校	副会長(4) 運営委員(3)
副会長	本川 敬一	釧路市立幣舞中学校	副会長(4)
運営委員	田中 幸治	小平町立小平中学校	運営委員(4)
地区理事	石川 宏司	森町立森中学校	地区理事(3, 4)
地区理事	藤崎 禎人	帯広市立帯広第二中学校	地区理事(4)
地区理事	松岡 伸之	釧路市立雲景中学校	地区理事(4)
元幹事	小川 満	千歳市立北斗中学校	経営部幹事(元 2)

役職	氏名	学校名	経歴
元幹事	加藤 秀典	千歳市立青葉中学校	経営部副部長(3) 経営部幹事(2)
元会計理事	黒川 裕之	余市町立西中学校	会計理事(2), 運営委員(元) 地区理事(30)
元地区理事	木村 和義	倶知安町立倶知安中学校	地区理事(2)
元副会長	宮澤 知	小樽市立菁園中学校	副会長(2) 地区理事(元)
元運営委員	坂本 博	登別市立幌別中学校	運営委員(2)
元地区理事	二本柳千尋	中標津町立広陵中学校	対策部長(2) 地区理事(元 2)
元地区理事	垣内 孝仁	網走市立第二中学校	地区理事(2, 3)
元地区理事	富川 浩	札幌市立柏中学校	研修部長(2) 地区理事(2)

※役職名については、直近に担当した役職の順に作成しました。

## 〈第1号議案〉 令和5年度 運営方針及び活動の重点

激動する国際社会において、我が国では、21世紀にふさわしい、持続可能な社会の仕組みを構築するため、行財政改革、規制緩和、地方分権等の動きが進行している。

教育界では、教育基本法及び教育関連法規の改正、第4期教育振興基本計画策定等一連の教育改革の流れを注視しながら、「社会に開かれた教育課程」及び「主体的・対話的で深い学び」の実現、「カリキュラム・マネジメント」の確立が求められている。また、国が進めるGIGAスクール構想の着実な推進により、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、一人一人に個別最適な学びや、協働的な学びを実現する等、新しい時代の学校教育である「令和の日本型学校教育」の構築も求められている。さらに、学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行等、中学校の教育の大きな変革となる取組も始まろうとしている。

また、令和5年度は本道における教育課題の解決と地域創生の実現に向けた「自立」・「共生」の基本理念を継承し、「子供の可能性を引き出す教育の推進」「教育の質を高める環境の確立」「持続可能な教育の実現」の施策を柱とした新たな「北海道教育推進計画」が策定される。

私たち中学校長は、学校教育の課題を踏まえ、人間尊重の精神に徹し、子供たちの「社会を生き抜く力」と「よりよい社会を形成する力」を育む教育とともに、生徒・保護者・地域の信頼と期待に応えるため、新たな教師の学びの姿の実現と多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成等、新しい時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮し、学校からの教育改革を推進しなくてはならない。あわせて、本来、学校が担うべき業務の明確化・適正化をはじめ、学校の組織運営体制の見直し、教職員の意識改革等により、「学校における働き方改革」の推進も図る必要がある。また、東日本大震災の風化防止に引き続き取り組むとともに、北海道胆振東部地震をはじめ、近年、災害等が多発していることから、今後起こりうる災害に対し、能動的に対応できる生徒を育成するため、防災教育・安全教育の更なる充実を図る必要がある。さらに、With コロナ（新型コロナウイルスとの併存）に向けて、教育活動を継続していくために必要な感染症対策と、生徒の健やかな学びの保障を両立させなくてはならない。

以上の認識に立ち、北海道中学校長会は、校長としての主体性と指導性、しなやかさを発揮しながら、会員相互の連携の下、「全日中新教育ビジョン 学校からの教育改革（令和2年5月）」の内容を踏まえ、「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」の推進と全道の中学校が抱える教育課題の解決に向けて、全日本中学校長会綱領及び、本会会則により、次の運営方針並びに活動の重点等に基づき、本会を運営していく。



三浦 英悟 事務局長  
(札幌市立琴似中学校)

### 1 運営方針

- (1) 本会の目的である「中学校長の職能の向上と、北海道の中学校教育の振興」を図り、校長相互の協力や信頼関係を一層深めるとともに、会の総力を結集して活動の充実と諸問題の解決に努める。
- (2) 道教委をはじめ、全日中、四種校長会及び教頭会等の教育関係諸機関や、PTAをはじめとした諸団体との連携を深め、国及び道・市町村教委の動向を踏まえて適切な対応に努める。
- (3) 校長としての学校経営力の向上を図り、道民の負託に応える中学校教育の創造に努める。

### 2 活動の重点

- (1) 校長会の組織と機能を充実し、活動の活性化を図る。
  - ①「オール北海道」として一体となった活動の推進
  - ②全日中新教育ビジョンを踏まえた学校からの教育改革の推進
  - ③教育改革を進めるための具体的な活動に関する適切且つ迅速な対応と情報の発信
  - ④組織体制及び運営の継続的な見直しと改善
  - ⑤教育関係諸機関、道小学校長会等の諸団体と連携した活動の推進
  - ⑥「第64回北海道中学校長会研究大会 小樽大会」の開催



**(2) 確かな学力の定着，豊かな心と健やかな体を育むための「カリキュラム・マネジメント」に努める。**

- ①全日中新教育ビジョンが目指す「確かな学力」，「道德教育」，「キャリア教育」，「健康教育・安全教育」，「いじめ防止」等の充実を図る特色ある教育課程の編成・実施
- ②基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と，それらを活用する能力及び学びに向かう力を育てる指導・評価の工夫・改善
- ③個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- ④子供が主体の教育活動の充実
- ⑤豊かな心と健やかな体を育てる道德教育・健康教育・体験活動の推進
- ⑥共生社会の実現に向けた教育の推進（多様性，包摂性）
- ⑦地域社会の人的・物的教育資源の効果的活用を通じた「カリキュラム・マネジメント」の確立，社会に開かれた教育課程の推進
- ⑧スポーツ教育・芸術教育の推進
- ⑨全ての生徒に対して発達支持的生徒指導，不登校の未然防止に向けた予防的生徒指導，不登校状態の生徒への課題対応的生徒指導の充実とチーム支援による生徒指導体制の強化
- ⑩with コロナ（新型コロナウイルスとの併存）等に向けて，子供の学びを保障するための活動の推進

**(3) 学校の自主性・自律性の確立と学校経営の改善に努め，家庭や地域社会に信頼される学校づくりを推進する。**

- ①学校評価の効果的な運用と教育課程の改善
- ②教職員の資質の向上を図る研修の促進と内容の充実
- ③家庭・地域社会との連携・協働による教育活動の充実

**(4) 教育活動を推進するための教育諸条件の整備・充実を期する。**

- ①新たな教職員定数改善計画策定による教育の質的向上と，義務標準法の一部改正による35人以下学級の中学校2年・3年への早期拡大
- ②新学習指導要領に基づいた教育活動を展開するための施設・設備の整備・充実
- ③「学校における働き方改革」を踏まえ，自治体等が主体となった週末の部活動の地域移行への推進と部活動の教育的機能や役割を補完する社会教育環境の整備の推進
- ④人的支援も含め，学習指導や生徒指導に専念できる環境の構築に向けた働き方改革の推進
- ⑤GIGAスクール構想推進に向けた環境整備及びサポート体制の充実
- ⑥With コロナ（新型コロナウイルスとの併存）に向けての適切な対策や条件整備の充実と拡充
- ⑦スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー，スクールロイヤーの配置の拡充，現場を支援できるスクールロイヤーの配置拡充と連携体制の構築
- ⑧「インクルーシブ教育システム」の理念を踏まえた特別支援教育の円滑な推進に向けた条件整備
- ⑨異校種間の連携・接続による連続性のある教育活動の充実
- ⑩学校職員評価制度における教職員の意欲を高める効果的な活用と人材育成
- ⑪高等学校入学者選抜の改善及び，公立高校適正配置に対する適切な対応
- ⑫へき地・複式校，小中併置校，小規模校における教育推進に係る諸条件の更なる改善・環境整備の充実
- ⑬校長の人事具申権の尊重と人事異動要綱に基づく適正な配置や見直し
- ⑭校長・教頭・主幹教諭等候補者の選考方法の検討・改善と人材確保に向けた条件整備
- ⑮広域人事，管理職の管外交渉の推進と条件整備

**(5) 教職員の服務規律の徹底，職責に見合った待遇改善を期する。**

- ①教職員の服務規律の遵守と法規法令に基づいた適切な学校運営
- ②不祥事の根絶に向け，教職員の意識改革や自覚を促す指導の徹底
- ③「人材確保法」及び「義務教育費国庫負担制度」の堅持
- ④給与体系の改善と校長・教頭の待遇改善
- ⑤公務員定年制の管理監督職の特例措置の拡充

## 〈第2号議案〉 令和5年度 各部業務計画案

### (1)経営部

#### 1 方針

本会の運営方針・活動の重点を受け、学校経営に法的根拠を据え、教育活動の充実に努める。

- (1) 教育制度、関係諸法規の情報収集と情報の提供、資料化に努める。
- (2) 学校経営上の諸問題や管理運営に関する法制研究を行い、その解決に資する。
- (3) 諸会議等を通じ、会員相互・地区との情報交換を図り、組織の連携・充実・発展に努める。



小森 享 経営部長  
(石狩市立樽川中学校)

#### 2 業務計画

##### (1) 諸会議の開催

###### ①経営部研修会

- |           |                     |
|-----------|---------------------|
| 第1回経営部研修会 | 4月28日(金)            |
|           | 方針、業務推進計画の検討        |
| 第2回経営部研修会 | 2月9日(金)             |
|           | 年度反省、次年度への課題・展望とまとめ |

###### ②小中合同学習会

7月18日(火)

質問・要望に対する学習会、道小と連携

##### (2) 法制研修会、地区別教育経営研究会の開催（今年度は道中が担当）

###### ①法制研修会の開催について

- ・単独開催の期間は、8月までを原則とするが、遅くとも10月までには完了する。
- ・講師・助言者は、各地区で確保する。
- ・法制研修会の会場費は、各教育局に請求する。(地教委との事前確認が必要)
- ・道中事務局からの役員の派遣は、原則として行わない。

###### ②地区別教育経営研究会の開催について

- ・開催期間は、原則として8～10月の3か月間とする。ただし、9月下旬又は10月上旬の木、金曜日は学校行事と重なるためできる限り避け、夏季休業中の期間が望ましい。
- ・法制研修会と合同開催の場合、開催計画書(様式1)に法制研修の項目を入れて提出する。
- ・地区別教育経営研究会には、合同開催であっても、道中事務局より、役員を派遣することを原則とする。
- ・派遣役員の任は、各地区へのお礼や激励及び情勢報告や質問等に対する回答が主であり、講師を目的とした派遣ではない。
- ・事前に各地区から「質問事項」(様式2)を集約し、それに対する調査研究を行い、回答をする。
- ・事前に派遣される担当幹事と地区担当者が綿密に説明時間、質疑の時間等を打ち合わせ、各地区のニーズに合った研究会になるようにする。
- ・会場費については、日本教育公務員弘済会北海道支部に請求すると、運営費として補助される。ただし、事前の申請が必要となる。

##### (3) 法制研究集録（今年度は道小が担当）及び学校経営の資料（今年度は道中が担当）の編集

- ・法制研究集録第53集は道中が担当し、HPに2月掲載予定。
- ・学校経営の資料は道小が担当し、7月中旬に各地区校長会へ送付予定。
- ・法制研究集録はHP掲載とし、学校経営の資料のみ冊子としているが、予算の関係上、前年度よりページ数を増やさないう工夫する。

##### (4) 関係諸団体との連携（日本教育会他）

## (2)研修部

## 1 方針

**基本主題『新たな時代を切り拓き よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育』のもと、道中研究大会において研究交流を深めるとともに、各地区における研究を基盤とした研究活動の充実に努め、校長としての識見や指導力の向上を図る。「全日中新教育ビジョン」の内容を踏まえた研究活動を更に推進し、学校経営の充実に寄与する。**

**教育課程の編成・実施に資する調査研究を推進し、今日的課題の解明に努め、学校教育の推進と向上に役立てる。他部との連携を図り、業務の円滑な推進に努める。**

- (1) 第74回全日本中学校長会研究協議会大分大会の円滑な運営と研究内容の充実に図るために、開催地区並びに各地区研修担当者との連携を密にする。
- (2) 第64回北海道中学校長会研究大会小樽大会の円滑な開催及び研究活動の充実に向け、小樽中学校長会との連携を密にする。
- (3) これまでの研究の成果と社会情勢の動向を踏まえ、令和7年度以降の研究推進について原案作成に向けた研究主題や分科会研究主題についての検討や準備を進める。
- (4) 令和5年度の研究を総括し、令和6年度「研究の手引き」の作成作業を行う。
- (5) 教育課程に関する情報収集に努め、中学校教育における今日的課題を明らかにし、問題点の解明に寄与する。

## 2 業務計画

## (1) 諸会議の開催

- |  |           |
|--|-----------|
| ①第1回研修部研修会   | 4月28日(金)  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究方針、業務推進計画及び業務推進について</li> <li>・第64回道中研小樽大会、第74回全日中研大分大会について</li> <li>・令和6年度「研究の手引き」の作成について</li> <li>・教育課程に関する調査について(令和5年度の調査実施と調査結果のまとめに向けて)</li> <li>・各地区研究推進状況や令和5年度の研究計画について</li> </ul>  |           |
| ②道中研究大会合同研修会(提案者・司会者等打ち合わせ会)   | 7月13日(木)  |
| ③道小道中合同研修会(学習会)  | 7月18日(火)  |
| ④道中研究大会全体研修会<br>(小樽大会→十勝・帯広大会)   | 11月10日(金) |
| ⑤第2回研修部研修会   | 2月9日(金)   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末反省、次年度への課題の検討と展望・まとめについて</li> <li>・令和6年度以降の研究推進について</li> <li>・令和6年度第65回北海道中学校長会研究大会十勝・帯広大会(9月27・28日)について</li> <li>・令和6年度第75回全日本中学校長会研究協議会東北大会について</li> <li>・令和6年度「研究の手引き」について</li> <li>・教育課程に関する調査について(令和5年度実施の振り返りと調査内容のまとめについて)</li> <li>・各地区研究推進の交流について</li> </ul> |           |

## (2) 研究活動の推進

- ①第64回道中研小樽大会と第74回全日中研大分大会の円滑な運営と研究内容の充実に図るため、当該実行委員会との連絡・情報交流を積極的に行う。また、道中研分科会提言及び全日中研提案に向けて、研修部として担当地区や発表者へのサポートを早めに行っていく。
- ②研究資料及び情報の提供、研究校の紹介、その他、研究活動の推進
- ③各地区研究推進の状況や各地区研究成果の交流を推進
- ④教育課程に関する調査と結果の分析・まとめ、調査研究報告書の発行

## (3) 関係機関との連携・調査、その他

- ①文部科学省や北海道教育委員会、市町村教育委員会をはじめ、全日中等の関係機関との連携や調査依頼について、各地区研修部担当者の協力のもと推進する。
- ②第74回全日中研大分大会事務局との連携や全日中事務局、各地区研修部担当者等との研究や研修に関する情報交換や連絡・調整を推進する。
- ③教育関係団体との連携・調整を推進する。



高橋 正幸 研修副部長  
(札幌市立平岡中学校)

## (3)対策部

## 1 方針

本会の「運営方針及び活動の重点」を受け、学校運営上の諸問題について調査研究を推進し、学校経営の向上に役立てる。また、会員の職責に見合う待遇改善に向けて業務を推進する。

- (1) 生徒指導等に関する情報収集、調査研究から情報提供に努める。
- (2) 会員の身分確立や福利厚生、給与等の待遇改善に関する課題解決に向け、関係機関との連携強化に努める。
- (3) その他、緊急性のある課題や各種調査、情報に関することへの対応に努める。



工藤 亘 対策部長  
(旭川市立中央中学校)

## 2 業務計画

## (1) 諸会議の開催

- ① 対策部研修会
 

第1回対策部研修会	4月28日(金)
	活動方針、業務推進計画の検討
第2回対策部研修会	2月9日(金)
	活動反省、次年度の展望とまとめ
- ② 小中合同事務局研修会・学習会 7月18日(火)
 

	道小との連絡・調整・情報交換
--	----------------

## (2) 各種調査の推進

- ① 令和6年度の調査報告書発行に関する検討・協議
  - ・GIGAスクール構想の取組と現状等に関する追加調査
  - ・いじめ問題への対応（主に重大事態についての対処）に関する調査
 

6月	令和6年度 道中対策部調査の推進について（事務局研修会）
8月	令和6年度 対策部「調査報告書」の方向性
9月	第3回理事研修会における方向性の確認
11月	各地区への意向調査の実施
12月	対策部担当者、各地区担当者に意向調査結果の送付
1月	令和6年度の対策部調査（案）を事務局研修会にて検討
2月	令和6年度 対策部「調査報告書」の内容を専門部研修会・理事研修会で確認
- ② 全日中諸調査への協力
  - ・教育研究部調査 10月
 

教育課程編成・実施上の諸課題や新しい時代に求められる学校づくり、全日中教育ビジョンを踏まえた、信頼される学校づくりに向けての調査研究への協力
  - ・生徒指導部調査 10月
 

当面する生徒指導上の課題や、特別支援教育推進上の課題、さらに部活動や安全教育等、健全育成の推進・充実のための調査研究への協力
  - ・給与対策部調査 12月
 

教員の勤務実態や定数・給与の改善に関する調査研究への協力

※教育研究部・生徒指導部調査は全道18校（小規模校9、中規模校6、大規模校3）に依頼

※給与対策部調査は、道教委担当者に依頼



## (4)情報部

## 1 方針

本会の運営方針と活動の重点を受けて、広報活動のより効果的な業務推進を図り、会員意識の高揚並びに組織活動の強化に努める。

- (1) 広く、本会活動の状況や関係機関の情報、各種資料等を提供する。
- (2) 各地区の活動や会員の研究成果、論説等の交流を図るとともに、各界から教育に寄せられる意見も掲載し、会員の職能向上に努める。
- (3) 教育関係機関・団体との情報・資料の交流並びに相互の連携・協調を図り、教育世論の喚起に努める。



細谷 隆志 情報部長  
(稚内市立稚内東中学校)

## 2 業務計画

## (1) 諸会議の開催

- ①情報部研修会（定例2回）
  - 第1回情報部研修会 4月28日(金)  
本年度の活動方針、業務推進計画の検討・協議
  - 第2回情報部研修会 2月9日(金)  
本年度の活動反省、来年度への展望等
- ②小中合同学習会 7月14日(金)
  - ア 道小情報部との研修、交流
  - イ 号外発行の打ち合わせ

## (2) 機関誌等の編集・発行

- ①「道中総会・研修会要項」の編集、発行
  - 令和5年度「第96回総会・研修会要項」の発行  
(4月28日(金)発行)
  - 令和6年度「第97回総会・研修会要項」の編集  
(令和6年4月発行)
- ②会報「道中だより」の発行(予定)
  - 第382号(6月8日) 第383号(7月6日)
  - 第384号(11月9日) 第385号(1月25日)
  - ※PDF配信とする。
- ③号外「道小情報・道中だより」の発行
  - (今年度は道小担当、校正作業は道小・道中が協力して行う)
  - 7月中旬：北海道文教政策・予算策定に関する要望に対する回答
  - 11月中旬：8月7日(月)開催予定の道教委との意見交換会・各課懇談会の内容
- ④会誌「全道中」第93号の編集、発行(3月発行予定)
  - 今日的課題をテーマとした特集記事を予定。

## (3) 道中ホームページ(HP)の充実について

本会活動の状況や各地区発行機関誌、会誌等の交流、関係機関の情報、各種資料等の提供の場としての運用とタイムリーな更新

## (4) 全日中機関紙「中学校」の編集協力

特集「学校経営」、シリーズ「経営」、「校長会だより」、「主張」等に関し、全日中編集部協力委員として、執筆割当を計画・依頼

## (5) その他

事業、活動の記録

## 石狩管内の教育関係機関の要となつて

江別市・中央中 佐藤 誠

「石狩は一つ!」, 管内教育関係機関の合言葉となつている。石狩管内小中学校長会は, 新会員20人(中10)を迎え, 7市町村98人(中38)でスタートした。自身の職能向上と管内教育の充実, 持続可能な社会の創り手を育成する学校経営を推進するために重点を定めている。今年度も関係機関との連携を大切に, 管内が一つになった教育を推進していく。

### 【活動方針】

- 1 信頼される学校経営, 管内教育の安定と充実・発展
- 2 職能向上をめざす研修活動の推進と教職員の資質向上
- 3 教育諸課題の把握とその解決
- 4 教育諸条件の整備や福利厚生等の推進
- 5 組織の強化と実態に即した会務の推進
- 6 会員相互の交流活動の推進
- 7 子供たちの未来を保障する授業改革の推進

### 【活動の重点】

- ① 人材育成
- ② 「働き方改革」の対応
- ③ 「授業改革」の推進

## 愛情と信頼に基づく後志小中学校長会

後志・岩内第一中 柴田 真琴

今年度の当会は, 新会長のもと昨年度の途中ならびに今年春に採用された校長を含め, 小学校長38人, 中学校長24人の計62人で構成している。

当会の設置目的は会員相互の『職能向上』と『小中学校教育の振興』を図ることであり, 以下の運営方針に基づき, その具現化に向け, 校長会が一丸となって各種関係機関と連携を図りながら推進する。

### 【運営方針】

- ①国や自治体における教育関連の動向を注視し, 迅速な情報収集・情報共有に努める。
- ②地域や会員が抱える課題に向き合い, その解決に寄与する取組に努める。
- ③関係教育機関, 関係団体と積極的な調整に努める。

### 【活動方針】

- ①愛情と信頼に基づく, 活力ある学校経営の充実
- ②「生きる力」を育む「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価・改善
- ③児童生徒理解の充実と, 時代の変化に即した生徒指導や個々の教育的ニーズに応える特別支援教育の推進
- ④会員の共同研究の推進と研究成果の交流による校長自らの研さん
- ⑤教職員の一層の資質・能力の総合的な向上
- ⑥教育諸条件を把握とその整備・充実
- ⑦教職員の処遇の改善

## 地 区 だ よ り

### テーマは「自立と連携・協働」

小樽市・桜町中 代 永 研

小樽市中学校校長会は, 市の方針「知・徳・体のバランスのとれた人材の育成」に基づき, 小樽の未来を託すことのできる人材育成を目指す教育推進のために研究と実践を積み重ね, 着実に成果を上げてきた。これまでの成果を踏まえ, 「小樽市立学校」の一角をあずかる校長として, その使命と重責を担って「自立」とともに, 市教委との連携や横のつながりを大切に「連携・協働」を基本方針とし, 自校や市内の課題解決に向けた取組を推進する。

### 【活動の具体】

- ①学校運営組織の機能化
  - ・指導的立場としての教務主任の機能化
- ②小中一貫教育
  - ・分掌内への小中一貫教育の担当の位置づけ
  - ・中学校区内の担当者会議・全職員での部会実施
- ③人材育成
  - ・主幹会のバックアップと主幹間の定期的な交流
  - ・教頭・主幹・主任等の他校見学と, 長期的展望に立った小樽市の管理職候補の育成
- ④業務改善
  - ・校内組織の機能化をベースにした業務の推進

### 新しい社会の形成に向けて挑戦する 子供を育てる学校経営の推進

上川・富良野西中 千葉 良彦

上川管内校長会は, 南部和紀会長のもと, 新会員16人(新採用8人)を加え, 22市町村88人の会員で新年度の活動を開始した。「愛情と信頼」・「研さんと結束」の合い言葉を継承し, 「ふるさとを愛し, 他者とともに持続可能な社会を創造する人材を育てる学校の在り方」の究明と, 住民の負託と信頼に応える上川教育の一層の充実発展に寄与する学校の教育力向上に努めている。今年度も各種事業を中止することなく, 状況に応じてオンラインの活用など柔軟に開催方法の工夫・充実を図り, 校長の連携と課題解決に努める。

### 【活動の重点】

- 1 「愛情」と「信頼」に基づき, 創意に富む信頼される学校経営の充実を努める。
- 2 校長自ら「研さん」に励むとともに, 教職員の一層の資質・能力の向上に努める。
- 3 組織活動の充実と確かな情報共有を図り, 会員の「結束」を強化するとともに, 教職員の処遇改善に努める。
- 4 上川教育局・地教委及び道小・道中, 教育関係機関・団体と連携し, 教育課題の解決及び北海道教育をリードしていくことに努める。

宗谷の風土に根ざし、変化の激しい時代を生き抜く力を確実に育む質の高い教育を目指して

宗谷・稚内東中 細谷 隆志

宗谷校長会は、小学校33人、中学校19人の計52人で組織されている。

本会は、結成以来「宗谷の風土に根ざした豊かな自然に育む子ども」というテーマを掲げ、社会の変化に伴う学校教育の諸課題を正面から受け止め、会員相互が研さんに励み管内教育の充実に努めてきた。本年度も管内全域で学校・家庭・地域が一体となり、活力ある学校づくりに全力で取り組む。

#### 【運営方針】

- 1 保護者・地域の期待に応える学校経営の充実
- 2 会員相互の理解と連携を深め、校長会活動の活性化による管内教育の充実・発展
- 3 関係機関・団体との連携による教育課題の解決

#### 【活動の重点】

- 1 「生きる力」を育む教育課程の編成・実施・評価・改善に努め、愛情と信頼に基づく活力ある学校経営の推進に努める。
- 2 研修活動を充実し、校長の職能向上と教職員の資質・能力の総合的な向上に努める。
- 3 関係機関・団体と連携し、教育諸条件の改善・整備と教育課題の解決に努める。
- 4 校長会の組織を強化し、活動の活性化を図る。

志を高く揚げ、充実した「留萌の教育」を創り上げていく覚悟をもって

留萌・羽幌中 関根 智

留萌管内小中学校長会は、石田正樹会長（留萌小）の下、2人の採用校長を迎え、8市町村・会員26人（小15、小中2、中9）で本年度のスタートを切った。

#### 【運営の方針】

- 1 校長の使命と責任を自覚し、自らの識見を高める研修の充実と情報の共有を図る。
- 2 会員相互の連携を密にして信頼関係を深め、組織の強化と活動の充実を図る。
- 3 物事や事象の変化に対し、柔軟な組織を確立し、先を見通した最善の対応を図る。
- 4 教育関係機関・団体及び地域社会との連携を強化し、諸問題の解決を図る。

留萌管内小中学校長会は、来年度発足50周年を迎える。諸先輩が築いてきた校長会の歴史と伝統を守りつつ、校長としての使命や責任を自覚し、新しい時代にふさわしい教育の在り方に躊躇なく挑戦する気概をもって取り組んでいくとともに、志を高く揚げ、充実した「留萌の教育」を創り上げていく覚悟をもって教育活動を推進していく。

## 地 区 だ よ り

檜山の教育に向けた「合言葉」～ 一人で悩まない、一人で悩ませない、孤立させない中学校部会 ～

檜山・北檜山中 酒井 豊志

檜山校長会は、小学校17人、中学校10人合計27人で組織されている。「ふるさと檜山に誇りを持ち、自己実現に向けて未来を切り拓く児童生徒」を育む学校経営の在り方を究明し、保護者や地域住民の負託と信頼に応えるため、自らの職責を自覚し、リーダーシップを発揮し、教職員の資質能力の向上と学校組織の活性化、活力ある学校づくりの推進を目指している。

#### 【活動の重点】

- 1 組織マネジメントを活かした活力ある学校経営の推進
- 2 「生きる力」を育む適切な教育課程の編成・実施・評価・改善（重点）
- 3 時代の変化に即した生徒指導や特別支援教育の組織的推進
- 4 教職員の資質能力の総合的な向上（重点）
- 5 服務規律の厳正な保持
- 6 組織活動の活性化と充実（重点）
- 7 ミドルリーダーならびに管理職候補者の育成
- 8 防災教育と健康安全教育の充実（重点）
- 9 学校における「働き方改革」の推進

未来を切り開き 豊かな社会を創り出す日本人を育成する渡島小中学校教育

渡島・大野中 後藤 正弘

渡島小中学校長会は、大橋宏朗新会長（大沼岳陽学校）のもと、18人の採用校長と1人の転入校長、計19人を迎え、56人で活動を開始した。

#### 【運営方針】

- 1 後継者育成に向けた取組の強化
- 2 「学校における働き方改革」の一層の推進
- 3 第66回北海道小学校長会教育研究 渡島・北斗大会に向けた準備・運営
- 4 研修活動の推進

#### 【活動の重点】

- 1 新しい時代を担う渡島小中学校の学校経営の充実に努める。
- 2 時代の動向に合わせて迅速な情報交流や協働の研修を進め校長としての識見や指導力向上を図る。
- 3 第66回北海道小学校長会教育研究渡島北斗大会へ向け準備を万全に整え運営に当たる
- 4 次世代の渡島の教育を支える人材育成を図り、後継者育成を進める。
- 5 教育の動向を踏まえ、教育関係機関・団体及び地域との連携を強化し諸課題の解決に努める。
- 6 渡島の教育全体の動向を各々の学校に生かすために調査と情報発信に努める。
- 7 渡島小中学校長会会員の連携をより一層図り、組織の強化と充実に努める。
- 8 教育環境・諸条件の整備と福利厚生への充実。

## 連携と協調のもと、一丸となって自走する函館市中学校長会

函館市・湯川中 田上直広

函館市中学校長会は、7人の新会員を迎え、会員数19人で新年度の活動をスタートした。新しい時代を生きる子供たちに「社会を生き抜く力」と「より良い社会を形成する力」を育むために、校長一人一人がリーダーシップを発揮し、主体的に教育改革を推進していく。私たちは、校長としての職能の向上を図るとともに、各関係機関との連携と協調のもと情報交流を深め、一丸となって諸課題の解決に取り組み、函館市の教育の充実・発展のため自走する組織として尽力する。

### 【基本方針】(要約)

- 校長会組織を機能させた経営課題の解決
- 「信頼される学校づくり」の創造
- 関係機関との連携、教育条件の整備充実

### 【活動の重点】(要約)

- 関係機関等とのネットワーク・CSを活用した教育課題・経営課題の解決
- 市教委、市小学校長会等との連携の充実・深化
- 各種実践交流による校長のマネジメント力の向上
- 管理職後継者および教員(北海道教育大学函館校との連携)の育成に対する指導・支援

## “ふるさと空知を愛する人を”～空知の子どもたちの健やかな成長を願って～

空知・豊中 竹内結美

空知校長会は、松本伸彦会長のもと、24市町・93人の会員で令和5年度の活動をスタートさせた。

管内では、学力・体力の低迷、いじめ・不登校等の増加などの課題解決が求められている。また、今年度は「自ら未来を拓き、ともに生きる豊かな社会を創る日本人の育成を目指す学校教育の推進」を基本主題とした研究のスタートの年でもある。課題解決と基本主題の解明を目指し、管内全校で「社会に開かれた教育課程」の実現とカリキュラム・マネジメントの推進を通じた学校改善に邁進する。

### 【活動の方針】

- 1 空知の校長としての使命を自覚し、常に研さんに励み、学校の自主性・自律性を発揮して、学校経営の充実・発展に努める。
- 2 校長相互の協力や信頼関係を一層深めるとともに、組織の在り方を再検討する中で、組織運営の効率や業務削減、諸問題の解決に努める。
- 3 空知教育局や各市町教育委員会及び道小・道中などの教育関係機関・団体と緊密に連携し、教育課題の解決にあたり、地域・保護者から信頼される学校づくりに努める。

## 地区だより

### 「チームとしての学校」への改善充実を目指して

胆振・光陵中 阿部聖司

胆振管内校長会は、今年度10人の新会員を迎え、11市町の小・中・義務教育学校103人でスタートした。瀧澤義守会長(幌別中)のもと、時代の要請や学習指導要領の目標を実現するために「チームとしての学校」への改善充実に一層努めることを掲げ、迅速且つ適切に諸問題の解決を図るよう活動を推進している。

### 【活動の重点】

- 1 校長としての職能向上を図る研修の充実
- 2 学校経営の適正化を図る研究・実践及び教育条件の整備・充実
- 3 教職員の意識改革と資質・能力の向上による学校改善、働き方改革の着実な推進
- 4 後継者の育成に向けた事業の推進(後継者の発掘、後継者育成研修の実施、胆振管内公立小中学校等教員等キャリアアップ研修会の実施)
- 5 道小・道中、第4ブロック、各市町校長会との組織的な連携の重視と行政機関並びに関係団体との連携の強化
- 6 会員同士の親睦と福利厚生の実施に関する事業の推進
- 7 諸事業の機能的・効率的な運営改善と予算執行の適正化

### 創造力豊かで夢を語り合える組織を目指して

帯広市・帯広第一中 堂山貴也

帯広市中学校長会は、村松正仁会長(大空学園義務教育学校)以下、14人の会員で組織されている。帯広市校長会の基本方針『専門職としての校長像を確立し、力量を高め合う校長会』の具現化を目指し、7つの校長像の実現のための努力を怠らず学校教育を推進し、市民の負託に応える活動を推進している。

今年度は、校長相互の協力や信頼関係を一層深めるとともに、帯広市教育委員会をはじめ関係諸団体と緊密に連携し、教育課題の解決やアフターコロナの学校を進めるため、中学校長ならではのスピード感等を生かし、諸問題の解決と活動の充実に努める。

### 【活動の重点】(要約)

- 1 中学校長会の組織を強化し、活動の充実に努める。(校種間連携の充実等)
- 2 教育課題の解決を図り、学校経営の改善に努める。(服務規律保持、働き方改革の推進等)
- 3 教育課程の整備・充実と地域に根ざした学校づくりに努める。(GIGAスクール構想における個別最適な学びの実現等)
- 4 円滑な教育活動推進のための教育条件の整備・充実に努める。(特別支援教育の充実等)



## 論 文

「チャット GPT」にどう向かうか  
～2023年5月時点での覚え書き～

札幌市立厚別南中学校 市川 恵 幸

## 1 黒船襲来

「チャット GPT」という言葉が、この数か月の間に、その優れた能力とともに驚きの目をもってマスコミで頻繁に取り上げられるようになった。

すでに御存じの校長先生も多いことと思われるが、チャット GPT とは、対話型人工知能 (AI) を使ったチャット (会話) サービスのことである。

その情報源は、インターネット上に記録されているありとあらゆる情報であり、それを質問内容に合わせて、AI が整合性のある応答文を作成し、利用者に提供するというものである。

つまり、「○○○?」のような問いをチャット GPT に入力すると、「□□□」のような答えが即座にしかも自然な言葉で示されるのである。また、メールを作成したり論文を書いたり作曲したりすることも可能となっている。

このサービスの活用にあたっては、その優れた性能ゆえ、各方面から賛否の声が聞こえるようになってきた。特に教育界においては、不安視する声の方が多く、規制を求める声も少なからずある。

まさに令和の「黒船襲来」の感さえするが、その有能さや便利さを考慮すると、この新たなサービスを相手に戦う／禁止することは難しいだろう。今後共存していくことを前提にした場合、どのようなことを念頭に置く必要があるのだろうか。

## 2 私たちは何におびえているのか

チャット GPT を使うと、一応はどんな問いに対しても、AI が情報をかき集め、合格点を与えられるような応答文を提示してくれるので、利用者としては気兼ねなく質問し、また安心して答えを享受することができるようになる。

昨今、ちょっとした調べものをしたりするとき、私たちは Wikipedia を活用したりすることが珍しくなくなったが、このサービスは更に膨大な情報を武器に、対話形式で瞬時に答えを教えてくれるということに大きな特長がある。そのため、教育現場において懸念されているのが、レポートや論文などを執筆する際の安易な利用である。また、作文コンクールなどでは、このサービスによって出来上がった文章を、そのままコピーして使用してしまうような事態も考えられる。そうなるとコンクール自体の意義も危ぶまれることになる。

懸念すべき点はまだある。それは、「教師」がチャット GPT に奪われるかもしれない仕事の一つになっているということである。

確かにそうだろう。インターネット上には、教師が一生かかっても獲得することのできない情報があり、これを一瞬の間に駆使して答えを導くこのサービスに当然敵うわけがない。

## 3 AI リテラシーを磨く

前述したように、このサービスは、インターネット上にある情報を組み合わせることで答えを導くという性質上、情報源そのものに誤りがあったり、実際には存在しない情報が含まれていたりしても、その真偽や適否を勘案することなく、文字通り「機械的」に作文することになる。

このことから、このサービスを使用するにあたって、私たちが意識しなければならないことは、今以上に、情報の正誤や適否を見極める能力を高めるということである。

情報の正誤を確かめるためには、多様なものの見方や考え方をしたり、筋道を立てて考えたりすることが必要になる。さらに、情報は意図的に選択されるものでもあるので、何が書かれてあり、何が書かれていないのか、という判断力も必要になる。

情報の適否という観点からは、その情報の信憑性を確かめたり活用についてのルールやマナーなどをより徹底したりしていく必要もあるだろう。

これらは、「AI リテラシー」というべきものになるが、このサービスと共存していくのであれば必要な能力といえるだろう。何より「教師」という職業が生き残るためにも、まずは教師自身がこのリテラシーを身に付けなければなるまい。

また、それを生徒にどう指導していくのかという点も今後の検討課題になるが、少なくとも、ICT 機器の活用がそうであるように、チャット GPT も「その子の学びや考えを深めていくための道具である」という認識に立つことが前提となるだろう。

\*\*\*\*\*

この原稿を十年後に読み返したとき、果たしてどんな感想をもつことになるのだろうか。

そんな問いを、今、チャット GPT に問い掛けると、どのような答えが返ってくるのか知りたいところである。



## 地域連携の一步目

日高町立日高中学校 石郷岡 卓

この4月、浦河町立浦河東部小学校から日高町立日高中学校に異動した。中学校区の児童生徒数は前任校と同じ。本校の生徒数は20人。教職員の構成は、こちらは20代が8人と若い。学校の周りの風景はサラブレッド生産牧場から日高国際スキー場変わった。

引越しが伴う異動なので、この地に立って、何年になるか分からないけど、ここで生活すると心に決める。日高管内に赴任して8年目になるが、それぞれの町の良さを知ることができた。出る頃にはそれぞれの町にあるおいしいお店と顔見知りになった。小さい町のお店では、そこで地域の方と知り合いになる。赴任して、早速、先生方に教えてもらって、そういうお店を見付け、地域の方々からいろいろと話を聞いた。

- ・バドミントンとスキーが盛んで、毎年、中体連では全道・全国大会に出場している。指導は地域の少年団が行っている。保護者の中にもバドミントン全国大会出場選手やスキー検定の上級者が多数いる。
- ・公立高校受検学区が道内全域となる区域で、管外の高校に進学する生徒が多い。
- ・地域の人口はおおよそ1300人。役場、消防、自衛隊などの公務員が多い。 など

現状の教育活動にこれらの情報を加味して、地域・保護者が必要としていることやこの地域にとっての学校の使命を模索する。

地域との連携は、子供や学校の抱える課題の解決、未来を担う子供たちの豊かな成長のためには、社会総掛かりでの教育の実現が不可欠で、

「連携することによって、多くの地域の人々が学校に関わるようになれば、より豊かな子供の学びが生まれる」とされている。過疎地の方が、子供の人数に対する大人の人数の割合が大きく、その分、子供は多くの大人から手厚い指導を受ける。実際、この地域でも、バドミントン、スキーで成果をあげている。

問題は、どのようにして、多くの地域の方々や学校に関わってもらおうかということになる。まずは地域の方を知らなければならない。こういう地域では、校長が率先して関わらなければならないと考えているが、ここの居酒屋さんで気軽にお話できる人が割と多くできたので良かったと思っている。



## 学びの変革と可能性

新得町立屈足中学校 七田 伸克

約30年前、学校ではワープロと感熱紙を使用し、また、多くの事務処理が手書きやゴム印などアナログ作業で行われていた。ワープロからパソコンへの転機は1995年頃だったと記憶している。文章作成ソフトや表計算ソフト等が身近な存在となり、データの共有という概念がサーバーの登場で一般化した。

そして、教育現場の情報化は、新型コロナウイルス感染拡大への対応とGIGAスクール構想が相俟って、加速度的に進展した。

近未来の社会Society5.0は、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより実現する。膨大なビックデータを人間の能力を超えたAIが解析し、その結果がロボットなどを通して人間にフィードバックされることで、これまでにはできなかった新たな価値が、産業や社会にもたらされる。

内閣府総合科学技術・イノベーション会議「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」には、社会構造と子供たちを取り巻く環境の変化に対応するために、教育や人材育成をどのように推進していくかという課題解決の方向性を「3本の政策と実現に向けたロードマップ」としてま

とめている。

そこでは、全ての子供たちの可能性を最大限に引き出すことを目指し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、「そろえる」教育から「伸ばす」教育へ転換し、1つの学校が全ての分野・機能を担う構造から、協働する体制を構築し、デジタル技術も最大限活用しながら、社会や民間の専門性やリソースを活用する組織（教育DX）への転換を目指すとして

ている。子供たちの学ぶ意欲を引き出し、「学ぶワクワク感」、「好き」や「夢中」を手放さない学びの実現は、明治以来の150年の学校教育がずっと求めてきたものである。

Society5.0時代の学びは、私たち教職員の頭の中にあるかつて自分が受けてきた教育とは異なることが予想され、それが1つ1つ実現されていくにつれ、不安や違和感が生じるかも知れない。

教育については、それぞれの経験や思いに基づく様々な考え方や意見があると思うが、次代を担う子供たちのために、何が必要か、そして自分には何ができるのかを考えていきたい。

文芸

分かり合える言葉で説明したい

旭川市立東陽中学校 片原俊光

私はアルファベットの略語が極端に苦手である。内容をすぐに想起できないばかりか、意味を誤解したりすることも多い。「SDGs」ぐらいは私にも分かる。しかし「ESD」と言われると、最初に頭に浮かぶのは「AED」である。「PDCA」と聞いて「YMCA」を想起するほど重症ではないが、「ADHD」と「DOHC」は何だか類義語のように感じてしまう。「DX」や「CBT」など2、3文字程度なら何とか耐えられる。しかし近年では、「STEAM教育」や「MEXCBT活用」のような長い略語が平気で私に襲いかかってくる。かつて某タレントが笑いのネタにしていたような言語環境が、日々の実務に横たわっているのである。

もとより私は外来語自体に拒否反応がある。だから、「……VUCAの時代、管理職は適切なアセスメントとファシリテーションを通じて教育活動の全体をスーパーバイズすることが求められる。そのためには、管理職自らがリスキングし、子供たちの未来にウェルビーイングを実現するためにリカレント教育の……」というような説明になると、私の脳内は激しく揺さぶられ、ある時点を過ぎると経文を聞くような有り難い感覚に向かうのである。

思えば、明治の人は丁寧だった。「哲学」「経済」「物理」など、西洋の概念を和製漢語で表現するのに意を用いた。適当な和語が見当たらないから造語をするしかなかったのだろう。だが、例えばベースボールを「塁球」ではなく「野球」と表現する優れた感性ももち合わせていた。「思想」「論理」「資本」…外国語をそのまま使った方が明らかに簡便だが、それでは言葉を鵜呑みにしただけで日本人には伝わらない。彼らは西洋の概念を一度自分なりに受け止め、咀嚼して、日本人が少しでも分かり合えるよう黙々と言葉の作業を続けてきたのだ。

私たちはどうだろう。そうした作業を丁寧に行っているだろうか。管理職の独り善がりの言葉を乱発していないだろうか。うる覚えの言葉をそのまま使って、説明を尽くした気分には浸っていないだろうか。そもそも、他の人と分かり合う努力を正しく行っているだろうか。

AIに文章を書かせることが日常になった今だからこそ、鵜呑みにせず、咀嚼して、分かり合える言葉を紡ぎたいと思う若葉青葉の季節である。

道中事務局日誌

(4月1日から6月8日まで)

Table with 5 columns: 月, 日, 曜, 業務内容, 時刻, 場所. It lists various events and meetings from April to June, including conferences, seminars, and administrative tasks.

発行者 会長 森田 聖吾 事務局 札幌市中央区北1条西3丁目

北海道中学校長会

敷島プラザビル4F

TEL011-251-1344 FAX011-251-1302

編集者 道中情報部

http://www.dochu-kochokai.jp/